

## 巻頭によせて

校長 北 村 聡

Kitamura Satoshi



前回の東京オリンピックは1964年（昭和39年）の10月10日開幕しました。またそれより先、同年10月1日には、東海道新幹線が開通していました。

私事で恐縮ですが、当時小学生でした。白黒テレビのオリンピック中継を家族揃って見ていた記憶があります。特にマラソン競技は印象に残っていて、エチオピアのアベベ選手が独走状態で国立競技場に入ってきました。次はと目をこらせば、日本の円谷選手です。競技場の大歓声が伝わって、お茶の間は興奮状態となりました。しかし、追走するイギリスのヒートリー選手に競技場内で追い抜かれ、円谷選手は惜しくも銅メダルとなりました。抜かれたとき、テレビの前で祖母が涙をこぼしていたのを今でもはっきりと思い出すことが出来ます。祖母の心に19年前の敗戦の記憶がよぎったのかもしれない。

ところで、1940年（昭和15年）にも東京でのオリンピック開催が決まっていたが、日本は中国での戦争状態が深刻で国際情勢が緊迫化し、大会は中止となりました。一方新幹線（当時は「弾丸列車」と呼ばれた）の計画も進んでいて、新丹那トンネルも掘削が始まっており、1954年（昭和29年）には東京下関間全線開通の予定でした。一体何故戦争に追い込まれたのでしょうか。

古代ギリシアでは、戦争を中断してでもオリンピックを開催しました。戦争や政治的対立故に大会を見送ったり、参加をボイコットするのが現代です。果たして人類は進歩しているといえるのか疑わしくなります。

便利さ、豊かさを追求する中で、人間としての大切な心が確実に失われていきます。たとえ今は敵同士であってもそれは立場上のこと、経緯上の結果であって、互いに人間としての尊厳を軽んずる資格はありません。

幸い様々な活動の中で、まだ礼儀やフェアプレイの精神を重んじる気風が残っています。打算のない、人間としての心を失うことのない生き方を忘れないようにしたいものです。